

ふるさとの医療を担う！

2024年度 広島大学医学部医学科

ふるさと枠のご案内



広島大学



広島県
Hiroshima Prefecture

地域医療を担う医師の育成について



広島大学長 越智 光夫

今日、我が国は、少子高齢化の急速な進展、総人口の減少など、大きな転換期を迎えています。厳しい社会環境の中で、広島県においては、特に中山間地域の医療を担う医師と特定の診療科の医師不足が深刻です。

こうした中、平成 20 年には「みんなで守ろう広島県の医療」緊急アピール」が発表され、平成 21 年から広島大学と広島県が連携して、将来広島県での医療を担う人材を育てるため「ふるさと枠入試」を開始いたしました。

幸いにも平成 21 年に 5 名、平成 22 年から平成 24 年には各年 15 名、平成 25 年以降には各年 18 名と順調に優秀な学生が入学し、一般学生とともに学業に励みながら、充実したキャンパスライフを送っています。これまでに 248 名の方が入学し、そのうち 139 名が既に卒業され、現在、県内の公的医療機関等で臨床研修や実地臨床に励んでいます。

このふるさと枠で「診療科の選択の自由がない」とか「先進的な医療の勉強ができない」といったことはまったくありません。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島の医療に強い関心を持ち、広島県内で医療

人として活躍したい、医療を通じて社会貢献を果たしたいという方を広島大学は全力で応援します。
どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事 湯崎 英彦

広島県では、総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる広島県の実現」を目指して取組を進めています。

山間部や島嶼部等からなる中山間地域が広い本県では、過疎化や少子高齢化が進む中で、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

そうした中、県内の地域医療を支える医師の育成を目的とする「ふるさと枠」制度によって、これまでに 139 名が卒業し、現在、臨床研修を修了した 100 名が県内各地で勤務を開始しております。そのうち 40 名が医師不足に悩む中山間地域の医療現場で、また 15 名が医師不足の特に著しい診療科で活躍するなど、県内地域医療の現場において大きな役割を担う存在となっています。

また、本県では、地域医療体制を確保するため、広島大学に「地域医療システム学講座」を設置し、地域医療を学ぶ教育活動や、中山間地域で勤務する医

師のキャリア形成への助言や支援を行うなど、地域医療を担う医師の育成に精力的に取り組んでいます。

大学での学びはもとより、この制度を通じて得られる多くの出会いや経験が、将来、県内の地域医療を支える糧となることを、心から期待しています。

是非、みなさんも、高い志と熱い思いを持って「ふるさと枠」を目指していただき、想いを共にする仲間とともに、本県の地域医療の活性化を担う人材として活躍されることを願っています。

2009年の制度開始から現在まで、**139名**の卒業生を輩出しています

各学年**18名**の学生が在籍中です

2015年～2023年累積ふるさと枠医師国家試験合格率は**97.9%**です
(広島大学医学部医学科は88.5%です)

卒業後は、毎年**同窓会**で絆を深めます

「広島地域医療を支えたい」という想いを、 ふるさと枠でより確かな形にしませんか



令和5年度は、広島大学医学部ふるさと枠を卒業し初期臨床研修を終了した若手医師100名が、市立三次中央病院、安芸太田病院、庄原赤十字病院等の県内各地の医療機関に着任し、地域医療を支える大きな力となっています。広島大学のふるさと枠の学生は、医療のみならずあらゆることに対してモチベーションが高く成績も優秀な学生が多く、クラブ等の課外活動でも活躍しているのが特徴です。広島大学医学部では、広島県と協力し、ふるさと枠の学生が豊かな人間性や地域へ愛情を育み、さらに医師としての確かな実力を養えるように教育を行っています。また、ふるさと枠出身の医師が、将来、「総合医」を目指す場合でも、あるいは「専門医」を目指すいずれの場合でも十分な研修ができるよう医学部全体で配慮をしています。

広島県の医療を良くしようという気概に溢れるふるさと枠出身の医師が、今後の広島県の医療の未来を築いてゆくことを願っています。

広島大学医学部長 粟井 和夫



広島大学医学部ふるさと枠は、県内中山間地域等の医療を守るため、広島県と広島大学が一体となって、本県の地域医療を担い・支えたいという志を持った医師を育てていく制度です。入学者が卒業するまでの間に貸与を受ける奨学金の原資は、県民の皆様から託された税金で賄われており、医師確保が困難な地域から大きな期待が寄せられています。この制度の下、医師が配置された地域からは、たくさんの歓迎の声が寄せられています。

また、地域医療の現場において、医師は診療を行うのみならず、医療・介護・福祉等の多職種の関係者と相互に連携・協力しながら住民の生活全般を支えていくという大きな役割が期待されています。

県としても、熱意や希望をもって、地域医療を志す皆さんが安心して活躍できるよう、しっかりと切れ目ない支援を行ってまいります。

ぜひ、「ふるさと枠」にチャレンジしていただき、より良い広島県の未来に向けて、ともに考え、取り組んでいきましょう。

広島県健康福祉局長 木下 栄作

ふるさと枠の受験を検討している方を対象としたセミナーを実施します！

広島大学医学部および広島県は、県内の地域医療およびふるさと枠制度について理解を深めることができる「広島県地域医療セミナー」を開催しています。

ふるさと枠の受験を検討している高校生・高卒生の皆さまにこのセミナーへの参加をお勧めします。

今年度の開催日は2023年5月27日(土)、7月22日(土)、11月23日(祝)、第二次申込締め切りは6月30日(金)です。

2024年度以降も毎年実施する予定です。詳細は以下のサイトをご覧ください。
(https://cbms.hiroshima-u.ac.jp/Seminar_information_r5.html)



広島県内各地で活躍中のふるさと枠医師からのメッセージ



広島大学病院 循環器内科 大澤文乃
(1期生 2015年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) →安佐市民病院(初期研修)
→広島大学病院(初期研修) →庄原赤十字病院→安芸太田病院
→安佐市民病院→安芸太田病院→庄原赤十字病院→広島大学病院

現在は広島大学病院で勤務をしています。これまでに、市中病院や中山間地域の病院で勤務をし、循環器内科医としての経験だけでなく総合内科医として地域医療も経験しました。両方の経験が出来るのも、ふるさと枠の醍醐味かもしれません。幅広く経験をしたい方や地域医療が好きの方など、ぜひ熱意のある学生に受験してほしいと思います。



広島大学病院 病理診断科 神原貴大
(2期生 2016年卒)

【勤務先】 県立広島病院(初期研修) →広島大学病院

ふるさと枠では広島県の医療への理解を、地域医療を中心に広い視点で深めることができます。自分の将来像を具体的に思い描きやすいため、医師として広島県の医療に関わりたいけれど思いばかり先行して不安だ、という方にこそお勧めです。私は講義や実習の経験も踏まえ、中山間地域同様に医師不足が続き、知事指定診療科となっている病理診断科の医師として県の医療を支える道を選びました。病理診断科では患者さんの診療と密接に関係する病理診断や、病気の本質と向き合う研究、あるいは病理解剖をおこなっており、興味の尽きない領域であると私は実感しています。医師としてどのように広島に関わりたいか、ふるさと枠でじっくり考えてみませんか?同志として働ける日を楽しみにしています。



安芸太田病院 消化器・代謝内科 小澤久美子
(3期生 2017年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) →安佐市民病院(初期研修)
→庄原赤十字病院→広島大学病院→安芸太田病院

私は消化器内科を専攻し、庄原赤十字病院、広島大学病院を経て、現在は安芸太田病院で勤務しています。ふるさと枠の医師として勤務する中で、中山間地域の医師不足の問題に直面してきました。医師が少ない地域で働くことは大変なこともあります。その地域に暮らしている方々の健康を自分たちが守っているという実感があり、患者さんから感謝の言葉をいただく機会も多いです。人を助けたい、役に立ちたいと思っているあなた、是非ともふるさと枠の医師として一緒に働きましょう。



公立みつぎ総合病院 リハビリテーション科 松岡見咲
(4期生 2018年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) →広島市立リハビリテーション病院
→広島大学病院→公立みつぎ総合病院

リハビリテーション科を専攻し、初期研修終了後は広島市立リハビリテーション病院・広島大学、2021年度から公立みつぎ総合病院で勤務しています。機能低下や障害の残った患者さんを担当しており、半数は高齢者です。中山間地域では医療・社会資源が限られている地域に帰る患者さんも多く、患者さんの希望を叶えるために他職種で連携して働いています。都市部と比べて悩むことも多いですが、その反面学ぶことも多く、充実した日々を送っています。



市立三次中央病院 小児科 今岡亜理紗
(4期生 2018年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) → 中国労災病院 → 広島市立広島市民病院
→ 広島大学病院 → 市立三次中央病院

私は広島県の中でも最も多くの無医地区を抱える庄原市で生まれ育ちました。大学進学を機に故郷を離れるまでの間、医師不足による診療科の休止や医療機関の閉鎖は常に身近な問題でした。そのような中、地域医療に携わりたいという決意をもった仲間と出会うことが出来たことは、大変心強いことでした。

すでに多くのふるさと卒の医師が地域で活躍する姿を見ると僻地出身者としては感謝の思いもあり、私自身もそれに続けるように日々の診療に取り組んでいきたいと思います。



中国労災病院 外科 井上和子
(5期生 2019年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) → 県立広島病院 → 中国労災病院

現在は市中の病院で外科医として修練中です。数年後の中山間地域での勤務を見据え幅広い経験を積み重ねる日々を過ごしています。ふるさと卒に直接の関わりがない上級医の先生方も、義務履行に配慮しつつ十分なキャリアが積めるよう進路のアドバイスをくださります。学生時代から今まで、ふるさと生であることを不安に思ったことはありません。沢山の方々が私たちを見守ってくださっていると感じています。



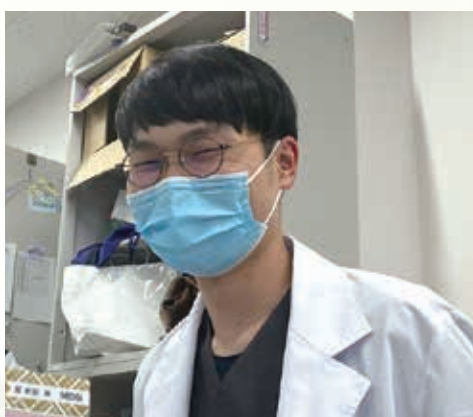
JA広島総合病院 産婦人科 西本祐美
(6期生 2020年卒)

【勤務先】 広島大学病院(初期研修) → 広島赤十字・原爆病院(初期研修)
→ JA 広島総合病院

広島大学病院・広島赤十字原爆病院で初期研修を行い、現在は産婦人科専攻医として廿日市にあるJA広島総合病院で勤務しています。

医師として働いてみると、ふるさと卒出身の先生方の多さに驚かされます。どの診療科に進んだとしても、ふるさと卒でできた年代や科を超えた繋がりは医師として働いていくにあたって大きなプラスになると思います。

広島のことを大好きな皆様が来てくださることを心待ちにしています。



市立三次中央病院 初期研修医 桜井悠一郎
(8期生 2022年卒)

【勤務先】 市立三次中央病院(初期研修)

私は現在、市立三次中央病院で初期研修医として勤務しております。三次中央病院は知事の指定する中山間地病院の一つです。ふるさと卒の先輩方が多く在籍しているので、普段の業務で困ったときには、学生時代から交流がある先輩医師に気軽に相談できます。できることが徐々に増えていくことにやりがいを感じながら、日々楽しく研鑽を積んでおります。私はふるさと卒入学まで中山間地域に馴染みはありませんでしたが、今は三次という地で公私共々楽しく過ごしております。ふるさと卒受験をきっかけに、地域医療のことを少しでも知ってもらえたら嬉しく思います。

知事の指定する中山間地病院 (4年間勤務)

※県内の公立診療所も知事の指定する医療機関に含まれます。



庄原赤十字病院



西城市民病院



市立三次中央病院



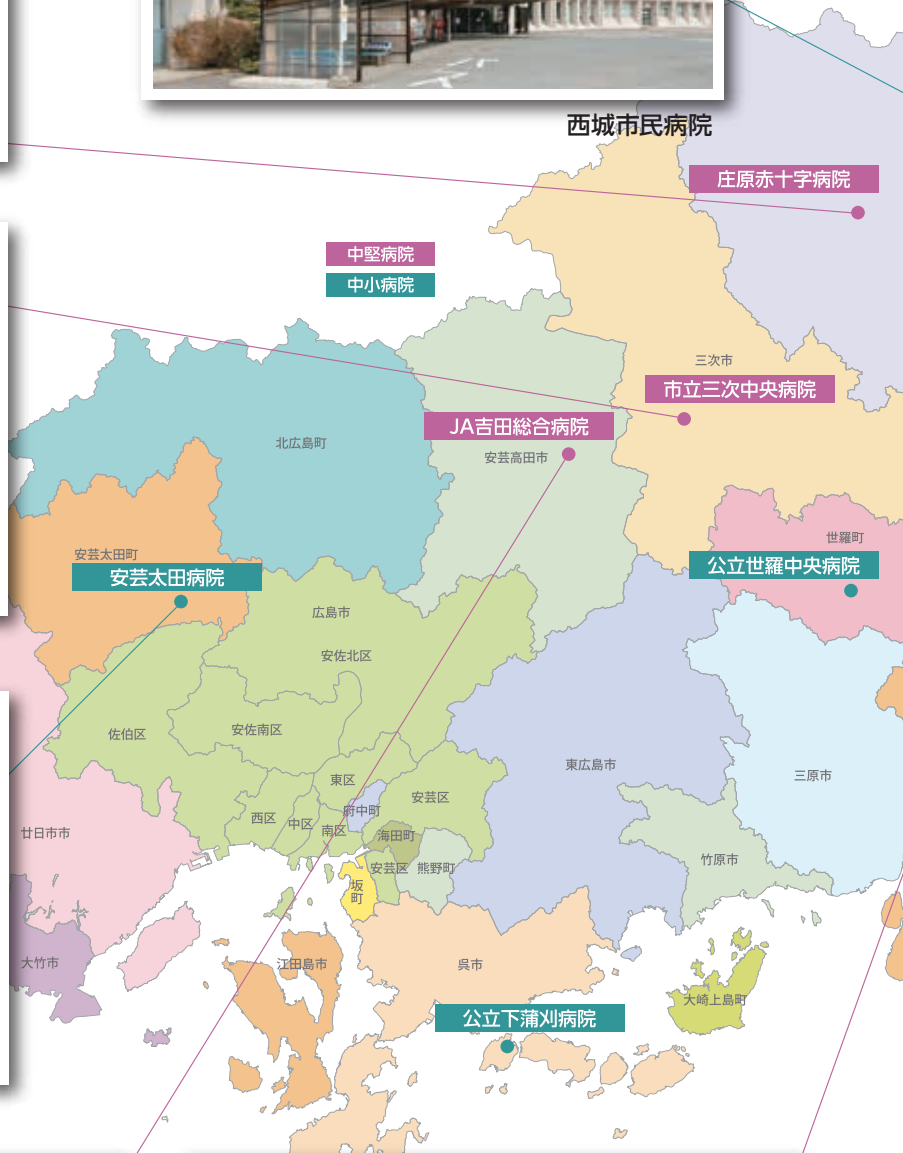
安芸太田病院



JA吉田総合病院



公立みつぎ総合病院



進路に関する基本方針

臨床研修は広島県内の公的臨床研修病院で行います。
 卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします。
 中山間地の4年間は総合医を原則としますが、医療機関からの要望があれば専門科医として勤務します。

令和5(2023)年度ふるさと卒医師勤務状況(卒後3年目以上)



専攻診療科名等	中山間地域指定医療機関										小計	※1 中山間地域以外の医療機関	計	
	中堅病院				中小病院									
	公立みつぎ総合病院	市立三次中央病院	庄原赤十字病院	JA吉田総合病院	公立下蒲刈病院	府中市市民病院	府中北市民病院	府中市湯が丘病院	西城市民病院	安芸太田病院				公立世羅中央病院
総合内科・総合診療科												4	4	
消化器内科		3	3						2	1		10	2	12
呼吸器内科	1	3										4		4
内分泌・糖尿病内科		2										2	1	3
腎臓内科		1								1		2		2
脳神経内科	1								1			2	3	5
循環器内科		2	2									4	7	11
リウマチ・膠原病科												1		1
血液・腫瘍内科										1		1		1
小児科		2										2	3	5
皮膚科													2	2
精神科													2	2
外科													2	2
消化器・移植外科													2	2
腫瘍外科		1										1	2	3
外科(外科専攻医)													1	1
整形外科		1								1		2		2
形成外科													1	1
腎泌尿器科		1										1	1	2
脳神経外科		1										1		1
放射線診断科		1										1		1
放射線治療科													1	1
麻酔科		3										3	2	5
救急集中治療科		1										1	5	6
リハビリテーション科	1									2		3	2	5
その他													1	1
小計	3	22	5						3	6		40 ^{*2}	45	85
産科婦人科(知事指定)		3										3	10	13
病理診断科(知事指定)													2	2
計	3	25	5						3	6		43	57	100
(参考) 令和4年度勤務人数	4	16	5	1					1	2	5	34	50	84

※1 中山間地域以外の医療機関

広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、広島大学病院(広島市)、県立広島病院(広島市)、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、広島市立北部医療センター安佐市民病院(広島市)、安芸市民病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、中国労災病院(呉市)、呉医療センター(呉市)、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、JA尾道総合病院(尾道市)、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、JA広島総合病院(廿日市市)、東広島医療センター(東広島市)、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立障害者リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)、広島県立障害者療育支援センターわかば療育園(東広島市)

※2 公立公的診療所勤務を含む。

※赤文字は現在勤務中の医療機関です。(2023.04 現在)

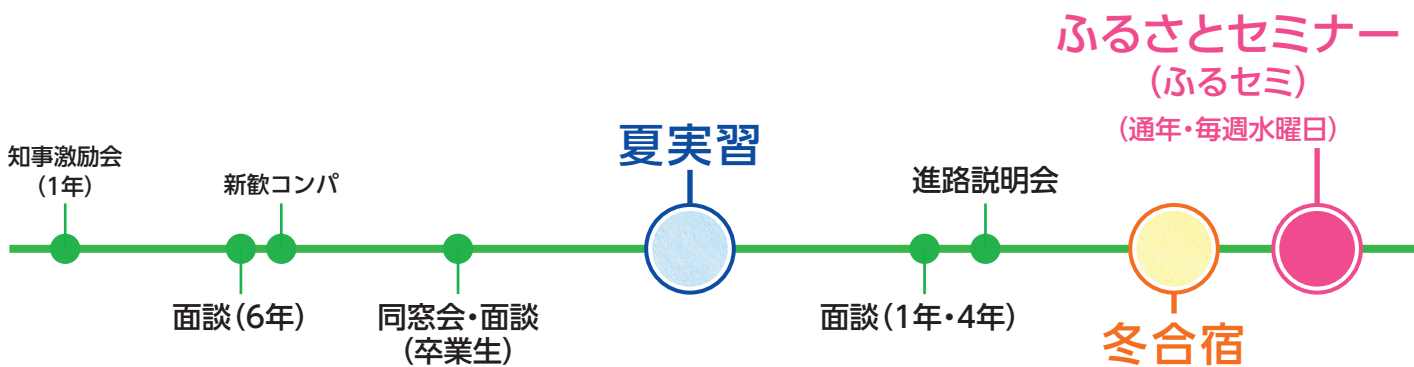
みなさんの学生生活を応援します！



我々教員はふるさと枠の学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、また卒後の進路に夢を持てるように、一人一人の思いを聞きながら教育や支援をしております。ふるさと枠では入学後から頻りにミーティングがあり、地域医療への理解と縦横の人間関係を深めるためのたくさんの企画も行ってまいります。新型コロナウイルスの影響下にあっても、県内、特に中山間地で活躍する卒業生がオンラインで在学生に講演したり、医療施設見学の方法を工夫するなどして、ふるさと枠の活動を続けてきました。このような活動を通して、広島県の地域医療を引っ張っていけるような人材に育てていただきたいと願っております。

地域医療システム学講座 教授 松本正俊

年間スケジュール



夏実習



令和4年度は
コロナウイルス感染拡大防止の
観点により、1、2年生の希望者のみの
少人数で行いました

8月に行われる夏実習では、実際に地域の方々の健康を守ることを使命に中山間地域で勤務されている先生方の姿を見て、将来の理想像をより明確にすることができます。私は、1年生の頃に庄原市総領町にある総領診療所で実習を行い、外来見学や介護施設往診見学をさせていただきました。実習を通して、地域における診療所の果たす大きな役割を生で見て感じることができました。実際に先生と患者さんとのやりとりを見て、私も先生のように患者さんと良好な関係を築くことができる医師をめざしていきたいと思いました。

医学科5年生 井上つぐみ

ふるさとセミナー (ふるセミ)



ふるさと枠の学生は、週に一度、ふるさとセミナー(通称"ふるセミ")に参加することになっています。そこでは、班に分かれて、先輩方が様々な企画を用意して下さいます。また、縦割りの班になっているので、多くの先輩と仲良くなれます。地域医療についての知識を得ることができ、先輩方とも交流できるこのセミナーを、僕は毎週とても楽しみにしています。

ふるさと枠のメンバーは皆、優しくてステキな人ばかりです。みなさんも是非、ふるさと枠で共に高め合っていきましょう!

医学科5年生 本多晃嗣郎



春実習

追いコン



冬合宿

令和4年度は、
コロナウイルス感染拡大防止の
観点により広仁会館
(宿泊なし)に行いました!



ふるさと枠の魅力はなんといっても地域医療実習や、ふるセミだと思います。地域医療についての知識を深めることができ、さらに地域医療の行われている場所で実際の現場を知り、体験することが出来るというのは、将来のためにも、今の自分にとってかけがえのない経験だと考えるからです。

地域医療実習のひとつである冬実習では、地域医療の現場で働く医師の方や、ふるさと枠出身の先生から、地域医療の現状や現場の様子などを伺うことができます。また、1年生から4年生までが参加する実習なので他学年のふるさと枠の人々と仲を深めることもできます。

このような貴重な体験が得られるのはふるさと枠ならではです!ぜひ、充実した有意義な学生生活をふるさと枠で送ってみませんか??

医学科6年生 谷菜穂

その他に...

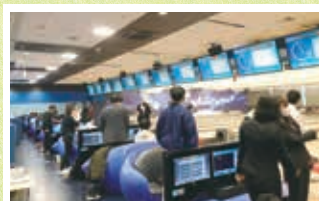


- 知事激励会(1年)
- 面談
(1年生、4年生、6年生)
学生1~2名と教員1~2名で学業のこと、大学生活やバイトのこと、進路のことなどをお話します。
- 進路説明会
(4年生、5年生)
臨床研修マッチング制度や臨床研修後のキャリアプランについてお話します。



令和元年撮影

- 同窓会・面談
卒業生が近況を報告しあいます。卒業生と大学教員の面談も行います。
- 新歓ボーリング大会
- 卒業生送別会



ふるさと枠 学生の声



医学科6年生 國吉遼大

ふるさと枠は将来広島県の地域医療を支えるという大きな目標を土台に、同級生だけでなく先輩や後輩達と世代を超えたつながりを持つことが出来ます。そしてそのための夏、冬のセミナーなど行事も沢山あり、同じ目標に向かって進む仲間を見つけることが出来ると思います。

先生方も大学生活だけでなく卒業してからの進路などについても相談に乗って下さり、本当に将来広島県の地域医療を担う医師となるためのサポートが充実していると思います。

将来広島県の地域医療を支えたい!という熱い思いのある皆さん。是非来年のふるさと枠としての活動でお会いしましょう。お会い出来ることを楽しみにしております。



医学科5年生 高橋勁草

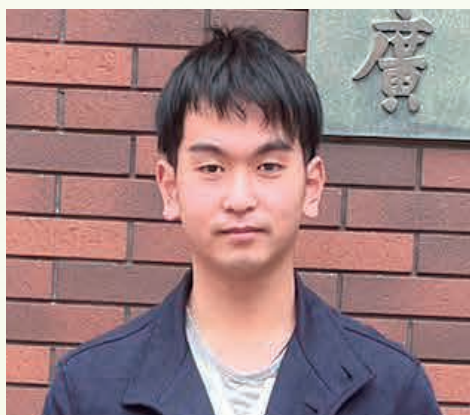
入学して感じたふるさと枠の魅力ひとつに「人とのつながり」があると思います。ふるさと枠では、毎週行われるセミナーや長期休暇中の地域医療実習で、さまざまな学年の人と交流できます。また実際に医療現場で活躍されている先生と直接お話する機会もあります。大学生にとって、いろいろな人と交流して刺激を受けることは、自分の将来を考える上でもとても貴重な機会だと思います。ぜひふるさと枠で充実した大学生活を送りましょう!



医学科5年生 井上つぐみ

ふるさと枠の魅力の一つとして、地域医療について学ぶ機会が多く設けられているという点が挙げられます。私は瀬戸内海に浮かぶ離島に位置する、佐木島診療所と百島診療所で行われた1泊2日の地域医療実習に参加しました。どちらの診療所も同じ先生が担当されており、午前と午後でそれぞれの診療所で診療を行う日もあるため、時間短縮のために先生自らがドクターヘリを操縦し、島と島とを行き来されていました。私は実際にドクターヘリに同乗させていただきました。この実習を通して、地域住民の健康を守る医療従事者の熱意を感じました。地域医療を担う医師をめざす私にとってとても実りのある実習となりました。

来年度、皆さんとふるさと枠のメンバーとしてお会いできるのを楽しみにしています!



医学科4年生 沼田義輝

初めまして、令和2年入学の沼田義輝です。さて、皆さんはふるさと枠についてどんなイメージを持っておられるでしょうか。

私は、ふるさと枠の魅力の1つに「人とのつながり」が挙げられると思っています。私たちが入学した当初はコロナ禍の真っ只中で多くの制限が課せられていました。その中で、入学開始時からオンラインでふるさと枠のセミナーを開催して下さり、また地域医療について考えるグループワークも開催していただきました。入学時心細かったですが、講座の先生方や先輩方が設けてくださった交流の機会を通じて、確かな繋がりを感じる事ができました。すでに医師として活躍されている先輩や他学年との交流の機会が多く、良い刺激を受けられるのも魅力的です。

まだまだ魅力は語り尽くせません。志を同じくする皆さんとも、繋がりが持てる日を心待ちにしております。

医学科3年生 細田健太郎

私を感じるふるさと枠の魅力の一つとして、現場の医師の方の話を聞く機会に恵まれているということが挙げられます。市立三次中央病院に実習で訪れた際に、ふるさと枠を卒業されて今は医師である先輩のお話を聞く機会がありました。そこでは在学中の勉強や部活の話から、進路の決め方、現在の医師としての仕事内容など多岐にわたる話をしてくださり、将来のイメージをより明確にすることができました。在学中の早い段階から様々な方のお話を聞けるのは、とても魅力的だと感じています。ぜひふるさと枠と一緒に活動していきましょう！



医学科3年生 伊藤潤

ふるさと枠の魅力としてみんなで地域医療について学ぶ機会が多く設けられているということが挙げられると思います。新型コロナウイルスの影響で活動に制限がある中でも、毎週、学年を越えてみんなが集まり、食事をしたり、楽しくてかつ学びのある企画を行います。また、病院実習では地域医療を行っている病院に実際に行き、その病院の空気を肌で感じながら、地域の健康を守る医師の方の話を聴き、様々な体験を行うことで地域医療についての理解を深め、将来そのような病院で働くイメージを持つことができるようになります。



医学科2年生 成田楽人

こんにちは！皆さんはふるさと枠についてどのくらいの知識を持っておられるでしょうか。このパンフレットを手に取り今読んでおられる方の中には熱心にふるさと枠について調べ本気で受験したいと思っておられる方も、進路選択の一つとしてふるさと枠を考えておられる方もいらっしゃるでしょう。ふるさと枠の良さの一つとして自分の将来や求められる場所を明確に思い浮かべることができる点があると思います。自分も広島大学のふるさと枠と地域医療への取り組みについて知り、具体的な進路をイメージすることができました。

皆さんとともに地域医療について考え、学べる日を楽しみに待っております。



ふるさと枠医師の育成に関わる先生方より



庄原赤十字病院は現在までに、17名（一期生から六期生まで、再赴任者を含む）のふるさと枠出身の医師を受け入れています。そのほとんどの医師たちはこう言っています。「学生時代や初期研修医の頃には、自分自身のスキルやキャリアについて心配があった。」「今は医師としての力が日々進歩し、専門的な研修も十分にできているので毎日が楽しいし、不安もない。」

実際に彼らと一緒に仕事をして感じるのは、臨床医としての喜び・期待・さらに自己を高めたという熱心さです。ふるさと枠であるということは、何らかの縛りではなく病院からさらに視野を広げていく、より前向きなツールとして作用しています。

充実した高いレベルの専門研修、いろいろな科の医師たちとの密度の濃い交流、そして臨床医として最も大事な医療者としての基礎を学ぶ毎日。当院のふるさと枠出身者たちは、まさにその中で日々成長しています。

庄原赤十字病院 院長 中島浩一郎

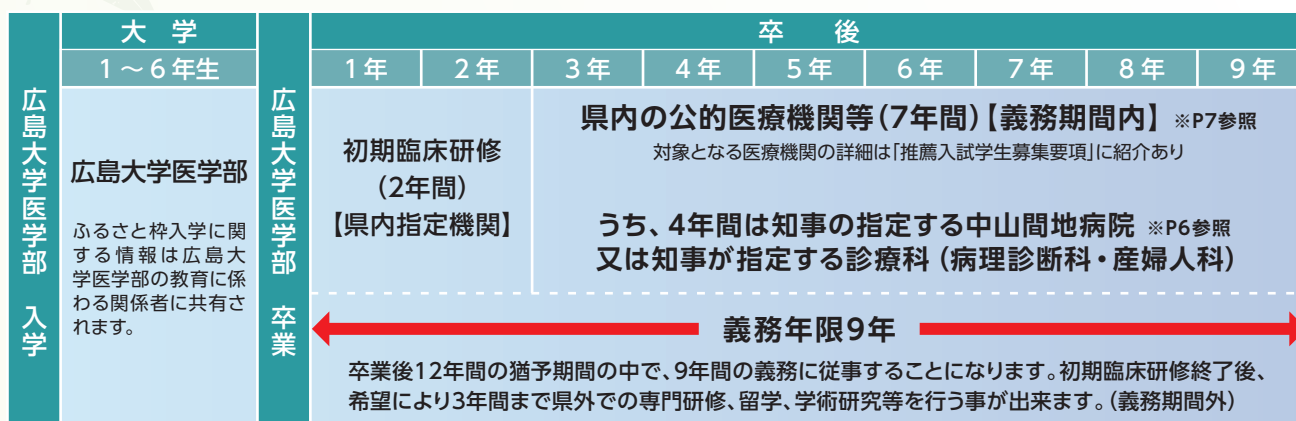


ふるさと枠入学制度が始まり15年が経とうとしています。地域医療の現場の楽しさや仕事のやりがいを医学生や若い医師に伝えるべく、日々奮闘しています。

地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診療、救急医療、生活習慣病などの慢性期医療、終末期医療、高齢者医療、在宅医療、介護問題、地域連携などなど、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。医師としての根源的な喜びを味わうことのできる現場といってもいいかもしれません。また、地域医療はその地域を活性化する一躍を担ってもいます。「ふるさと枠」の仲間で地域医療をもっと楽しく、魅力あるものにしてゆきましょう。

神石高原町立病院 副院長 服部文子

入学から卒後の進路



『広島県キャリア形成プログラム』について

「広島県キャリア形成プログラム」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテーション方針等を定めた標準的な育成計画です。

卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

《キャリアプランの概要》

1 ふるさと卒卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修(2年間)修了時まで、次のコース(①～③)のいずれかを選択します。

選択コース		補定等	
A	広島大学病院 各診療科等所属コース	中山間地サブコース(①)	下記以外の診療科(26診療科※1) (診療科毎の標準的なプランを用意)
		知事指定診療科サブコース(②)	病理診断科・産婦人科(標準的なプランを用意)
B	地域専攻コース ※個別の診療科への所属を 希望しない方	中山間地サブコース(③)	「広島大学地域医療システム学講座」及び 「広島県地域医療支援センター」がサポート して具体プランを作成

2 中山間地域等指定機関での勤務について(配置ガイドライン)

- 中山間地域等指定機関を『中堅病院』(4機関)と『中小病院』(8機関)に分類※2(P.7表参照)し、中山間地域での4年間の勤務のうち、『中小病院』には、原則2年、少なくとも1年以上は、常勤として勤務します。(知事指定診療科サブコース(②)選択者は除く。)
- 中山間地域での勤務は、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての勤務を原則としますが、中山間地域等指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

【例】広島大学病院・中山間地サブコース(①)「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	
勤務先等	初期臨床研修 (県内指定機関)		大学病院	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務	大学病院 社会人大学院入学(希望者) 総合診療専門医試験	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務 内科専門医試験(希望者)	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務	関連病院(指定機関) 内科・総合診療科勤務			

(大学院入学年度は、希望に配慮)

(注)中山間地サブコース①の診療科の構成(※1)や、中山間地域等指定機関の分類(※2)は、後年において変更となる場合があります。



「広島県医師育成奨学金」について(概要)

(広島県健康福祉局医療介護基盤課)

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行っていただくことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行っていただきます。

◆貸付額◆ 月額20万円(6年間の総額:1,440万円)

※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日(6学年の3月末日)までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きます。(R5.4月現在の法定利率:年3%)

◆貸与期間◆ 6年間(大学の通常の修業年限(通算6年間)を超えることはできません)

◆返還免除◆ 大学医学部の卒業後から12年間(貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」)までに、別に定める基準(キャリアプラン)に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金(利息を含む。)の返還が、全額免除されます。

【要件1】

貸付期間の1.5倍に相当する9年間(必要従事期間)を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等^{※1}において医師の業務に従事する。

【要件2】

上記9年間(必要従事期間)のうち、4年間(広島大学病院等県内での初期臨床研修2年間を除く)を、次の①・②のいずれかで従事する。

- ①知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関^{※2}
- ②公的医療機関等の知事が指定する診療科(病理診断科・産婦人科^{※3})

※1、※2、※3については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

◀上記の要件を整理すると、次のとおりです。▶

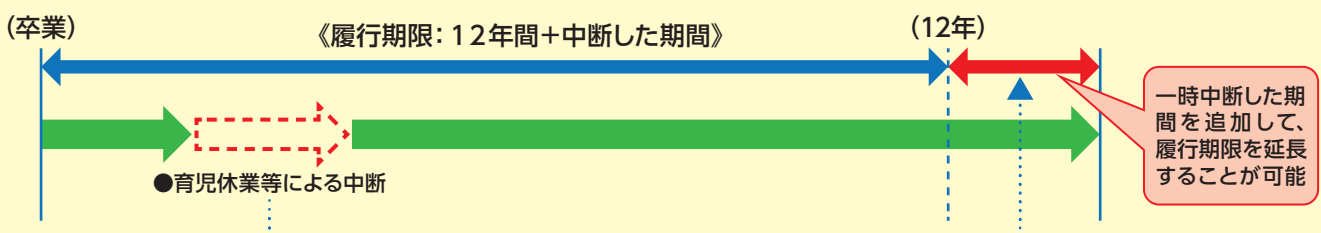
- 貸付期間：6年間
- 返還猶予期間(免除要件の履行期限)：卒業後12年間
- 必要従事期間(9年間)：県内初期臨床研修(2年) + 県内公的医療機関(7年、うち①又は②が4年)

卒年後	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務等	(6学年)	初期臨床研修(2年) 【県内指定機関】		3~12年目の10年間で、7年間を県内公的医療機関等で勤務、そのうち4年間は、中山間地域等の指定機関(又は指定診療科)で勤務(任意の3年間を使って、県外研修や留学などの機会を得ることが可能)									

※卒業後の県内勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行います。

◆その他◆ ※出産・育児等による勤務中断の取扱い

出産・育児(又は家族介護)を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断(休業・離職等)した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加(猶予を延長)することができます。



★指定医療機関で9年間の勤務(うち中山間地域等で4年間)

Q 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

A 全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません（現在は病理診断科と産婦人科が指定されています）。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指す始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

A そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

A 例えば、「初期臨床研修（県の指定医療機関）2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。

入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当: 広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ (医学部担当)

電話: 082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当: 広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座

電話: 082-257-5894

<http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学地域医療システム学講座



広島県

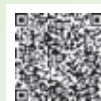
Hiroshima Prefecture

奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52

担当: 広島県健康福祉局医療介護基盤課

電話: 082-513-3062



広島県医師育成奨学金